

多くの歯科医師・歯科衛生士の方々が、今この時も全国各地で予防歯科に取り組んでいます。「LION Dent. File」では、時代の趨勢となっている予防歯科への潮流の中で、日々活躍されている歯科医師・歯科衛生士の方々のさまざまな取り組みについてご紹介します。

妙高連峰を背景に、果樹園や田園風景が続く口ーカル線に揺られて長野駅から45分。長野電鉄・延徳駅から川沿いの道を15分ほど歩いた先の小さな住宅地に、延徳歯科医院があります。成人歯科担当の仲川隆之院長と、この地の出身である小児歯科担当のなぎさ副院長のご夫妻が開業した同院は、当初から予防型の診療方針を徹底。開業から2年が経過した現在、通院患者さんからのクチコミによって、予防歯科を求める人の輪が広がるという理想的な流れができてつつあります。開業の経緯や予防歯科への想いについて、お話を伺いました。

転機となった日吉歯科診療所との出会い。

仲川隆之先生 延徳歯科医院は、山形県酒田市の日吉歯科診療所を抜きにしては語れない医院です。というのは、私も妻も、そして医院の立ち上げ時から一緒に働いてくれている歯科衛生士の今井も、熊谷崇先生のもとで勤務した経験のあるメンバーなんです。私は5年間、妻は3年間、今井は2年間お世話になりました。

私は歯学部を卒業して臨床に携わるようになってから、治療だけでは歯の喪失を止められないという

現実には、疑問を抱くようになりました。転機が訪れたのは、母校の新潟大学での研修医1年目のことでした。日吉歯科診療所が行っている、若い歯科医師を対象にしたセミナーに参加したことがきっかけです。

「予防に勝る治療法はない」「天然歯に勝る補綴物はない」という熊谷先生の話を、最前列で聞いていたことを今でもよく覚えています。「これこそが自分がやりたい歯科医療だ！」と胸が高鳴る思いがしました。さらに縁あって、翌年の春から日吉歯科診療所で勤務することになり、熊谷先生の診療方針をじかに学ぶことができました。

日吉歯科診療所の勤務医には、5〜7年勤務した後、それぞれの地元で開業するという、暗黙の了解のようなものがあります。「予防歯科は地域に根付き、地域に貢献するもの。そのような医院が全国に増えるように」という熊谷先生の考えを実践するべく、日吉歯科診療所の歴代の勤務医は全国に巣立っているのです。私は、日吉歯科診療所の歴代勤務医の“五男”にあたります。

予防歯科を求める患者さんにとって、なくてはならない医院に。

隆之先生 開業するにあたって、「全ての患者さんに

「歯を治す医院でなく、 歯を守る医院」 揺るぎない方針 による医院構築

長野県中野市 延徳歯科医院

院長 **仲川 隆之** 先生

副院長 **仲川 なぎさ** 先生



怖さ」を理解してもらうのは難しいですし、かと言って「今回もいいですね！」と褒めるだけでは、わざわざメインテナンスに通っている意味が感じられません。

「現状を維持するために通院する」ということの意味や価値を理解していただくことは、一度でも痛みや不具合を感じたことのある成人とは違った難しさがあります。

それでも、何かしら「来てよかった」と思っていただいたり、メインテナンスに通うことの価値をきちんと感じていただけるように、現状の口腔内の分析や将来的な予測、歯に関する知識などを提供し続けることが私たちには求められます。その意味では、小児歯科に大切なのは、技術よりも知識の引き出しなのかもしれません。

しまった疾患に対しては、質の高い治療も必要です。

そのためには、1人1時間の治療時間を確保すること、拡大鏡を使用すること、ラバーダム防湿、印象採得前の歯肉圧排など、基本に忠実な診療を積み重ねることが重要です。

また全ての患者さんに対して、術前と術後の口腔内写真、レントゲン写真、歯周チャートを用いた治療結果の比較説明を行うため、治療の質は患者さんにも担当の歯科衛生士にも一目瞭然です。

なぎさ先生

当院では毎月院内勉強会を開いていて、その中で症例検討会なども行うのですが、当院はまだ開業して2年ですから、症例の経過年数も長くて1年半ほどです。一方、日吉歯科診療所には、初診から32年経過した患者さんがいます。しかも日吉歯科診療所が次の代に引き継がれたら、30年後にはそれが62年経過症例になり、いつか0歳から80歳の80年経過症例も出てくるかもしれません。予防歯科に取り組むうえで、

隆之先生

予防中心の歯科医院というと、治療を軽視していると思われてしまうかもしれません。しかし当然ながら、予防やメインテナンスのみで歯科疾患の全てが解決されるわけではなく、すでに発症して

医院脇の川沿いでスタッフ全員の集合写真。
抜けるような青空と草木の緑が印象的な立地。



仲川 隆之（なかがわ たかゆき）先生 プロフィール
2005年新潟大学歯学部卒業。新潟大学医歯学総合病院での勤務を経て、2006年5月より山形県酒田市の日吉歯科診療所に勤務。2011年4月に延徳歯科医院を開院。成人歯科を担当。

仲川 なぎさ（なかがわ なぎさ）先生 プロフィール
2005年新潟大学歯学部卒業。新潟大学医歯学総合病院での勤務を経て、2008年4月より山形県酒田市の日吉歯科診療所に勤務。2011年4月に延徳歯科医院を開院。小児歯科を担当。

「生涯にわたって患者さんに寄り添える」という喜び

歯科衛生士 今井 千鶴さん

**患者さんの理解に甘えず、
丁寧な説明を。**



当院の診療室は全て完全個室で、専任歯科衛生士の私も一部屋を任せてもらい、担当患者さんの歯周基本治療とメインテナンスを担当しています。初診患者さんには、当院の診療の流れについて説明してから、全顎的な口腔内診査をしています。開業当初こそ全顎的な検査の必要性を理解されない患者さんには、院長から説明していただいていたのですが、現在では、その必要はほとんどありません。クチコミの患者さんはすでに当院の診療システムをご存じなので、説明の時間は大幅に短縮されました。

ただ、いくら予防に理解がある患者さんであっても、具体的にどのようなことを何のために行うのか、ということまではご存じないですから、そういった説明をしっかりと最初にして、ご納得いただいたうえで通っていただけるように努めています。また、予防歯科がベースという

医院の方針はありますが、一人一人の患者さんにはそれぞれの病状や背景がありますので、医院側からの一方的な押し付けにならないように、その方にあったゴールを設定するように気を付けています。

また、メインテナンス中にわずかでも変化の兆しがあるときにはすぐに院長に声をかけます。当院では「一番大切なのはメインテナンス」という共通認識がありますので、例えば治療中でもすぐに診ていただけます。歯科衛生士にとっては非常に働きやすい環境です。

患者さんの口腔の健康を支えるのが歯科衛生士。

私は中野市から程近い須坂市の出身です。学生時代から予防歯科に興味があり、日吉歯科診療所のセミナーに参加したことで仲川院長と出会いました。なぎさ先生と出身地が近いこともあって「私たちが開業したら、一緒に働きませんか」と声をかけていただき、立ち上げから参加するという貴重な経験をさせていただきました。

院長からは「延徳歯科医院の歯科衛生士に求めているのは、重度歯周炎の患者を治す能力でも、全国でセミナーを行える能力でもなく、生涯にわたって担当患者さんに寄り添い、口腔の健康を支えられる能力です」と言われています。これはある意味では、重度歯周炎を治すよりも高いハードルだと感じますが、与えられる責任が重い分だけ、やりがいもあります。